

参考濃度について **火山灰濃度：電事連評価** 2

プラントの設計層厚とそれに基づく参考濃度は、以下のとおり。
 (既に新規基準への適合に係る設置変更許可を受けているプラントについて例示)

	美浜 3号機	高浜 1,2号機	高浜 3,4号機	大飯 3,4号機	伊方 3号機	川内 1,2号機	玄海 3,4号機
設計層厚*1 (cm)	10.0	10.0	10.0	10.0	15.0	15.0	10.0
参考濃度*2 (g/m ³)	約1.8	約1.4	約1.4	約1.5	約3.1	約3.3	約3.8
現状の 限界濃度*3 (g/m ³)	約1.6	約1.6	約1.8	約1.1	約0.7	約1.0	約0.9

- * 1 : 設置変更許可申請書に記載の値
- * 2 : 降灰時間を24時間と仮定し、設計層厚から試算した機能維持評価用参考濃度
 (第2回検討チーム会合「資料3」に基づいた試算値)
- * 3 : 現状設備において (ディーゼル発電機を交互に切換え、フィルタ取替・清掃することによって)
 対応可能な限界濃度

広島高裁決定文に引用

※降下火災物の影響評価に関する検討チーム, 第3回(6月22日), 資料1-2-2, p.3

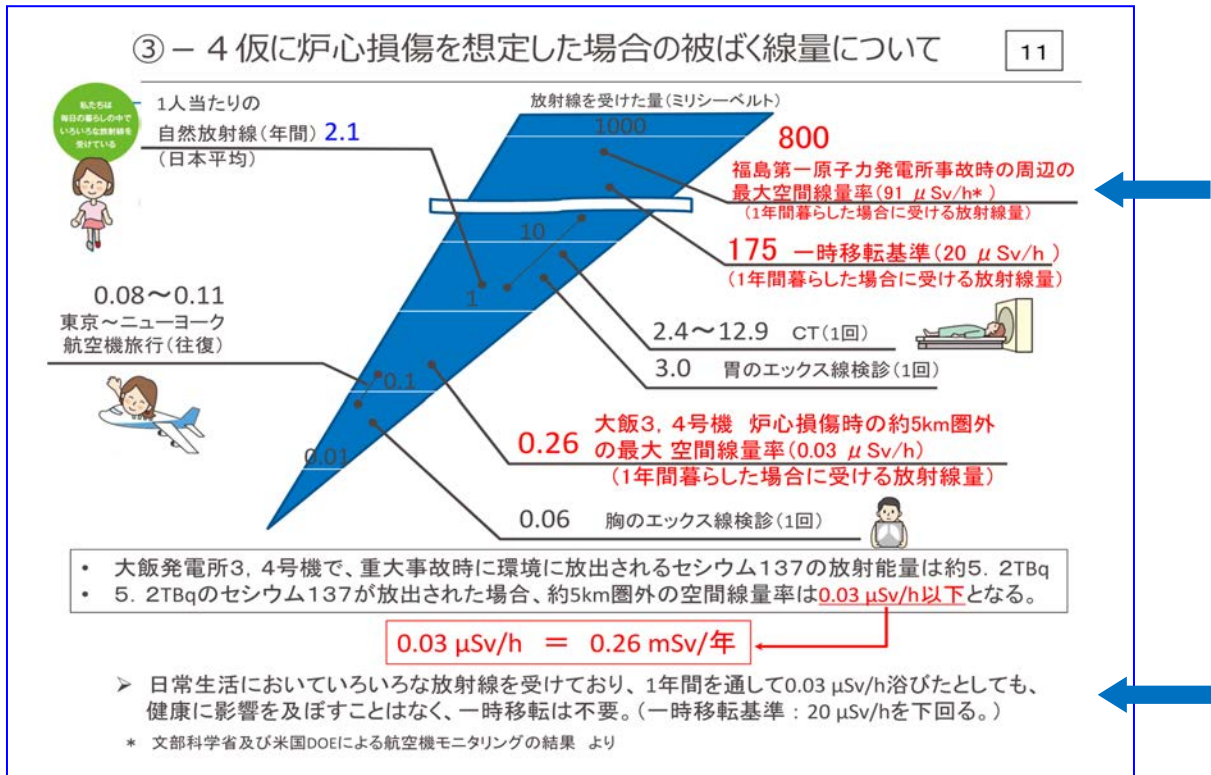
地質調査研究報告, 第68巻, 第1号, p. 1-16, 2017
 大山火山噴火履歴の再検討 山元孝広 (産業技術総合研究所)



関電想定 of 層厚 10 cm は過小。専門家の報告では、風向きにより、20~50 cm の火山灰層厚が予測される。

[資料 3-1] 綾部市での住民説明会 関電資料

<https://www.city.ayabe.lg.jp/bosai/kurashi/anzen/bosai/documents/kanden.pdf>

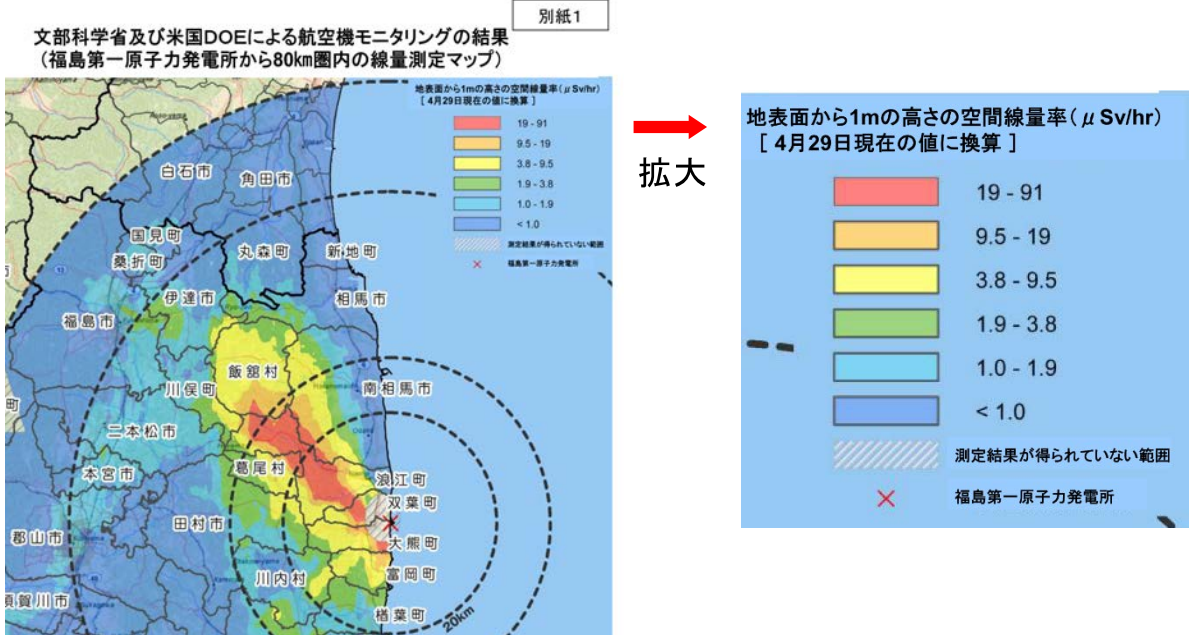


[資料 3-2] 関電が引用している $91 \mu\text{Sv/h}$ の出典 文科省と米国 DOE による航空機モニタリング

http://radioactivity.nsr.go.jp/ja/contents/4000/3710/24/1305820_20110506.pdf

2011年4/6~4/29にモニタリング実施。その結果を4月29日現在の値に換算して、5月6日に発表したもの。

★関電は4月29日の $91 \mu\text{Sv/h}$ を福島原発事故時の周辺の「最大」空間線量としている。「最大」が $91 \mu\text{Sv/h}$ とは虚偽。再度の説明会で、撤回し謝罪すべき。



[資料4] 2011年3月には、91 $\mu\text{Sv/h}$ より相当に高い数値が確認されている

http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec_file/monitoring/etc/post3-20120921.pdf

★福島県の資料：下記の「双葉町 上羽鳥」は原発から約6km圏で、1,590 $\mu\text{Sv/h}$ 関電は、福島原発事故を小さく見せようとしているが、事実はごまかせない。

平成23年3月11日～3月31日（東日本大震災発生以降）にモニタリングポストで測定された空間線量率等の測定結果について

1 空間放射線

(1) 空間線量率

福島県が原子力発電所周辺の23地点、原子力発電所予定地周辺1地点及び比較対象地点1地点、東京電力(株)が福島第二原子力発電所が発電所敷地境界7地点で平成23年3月11日から31日に測定した空間線量率の結果は以下のとおりであり、震災に伴う停電等によるデータの欠測がありました。原子力災害の影響で過去の最大値を大きく上回る値が記録されました。

各地点の空間線量率の変動グラフ（1時間値）は参考資料のとおりです。

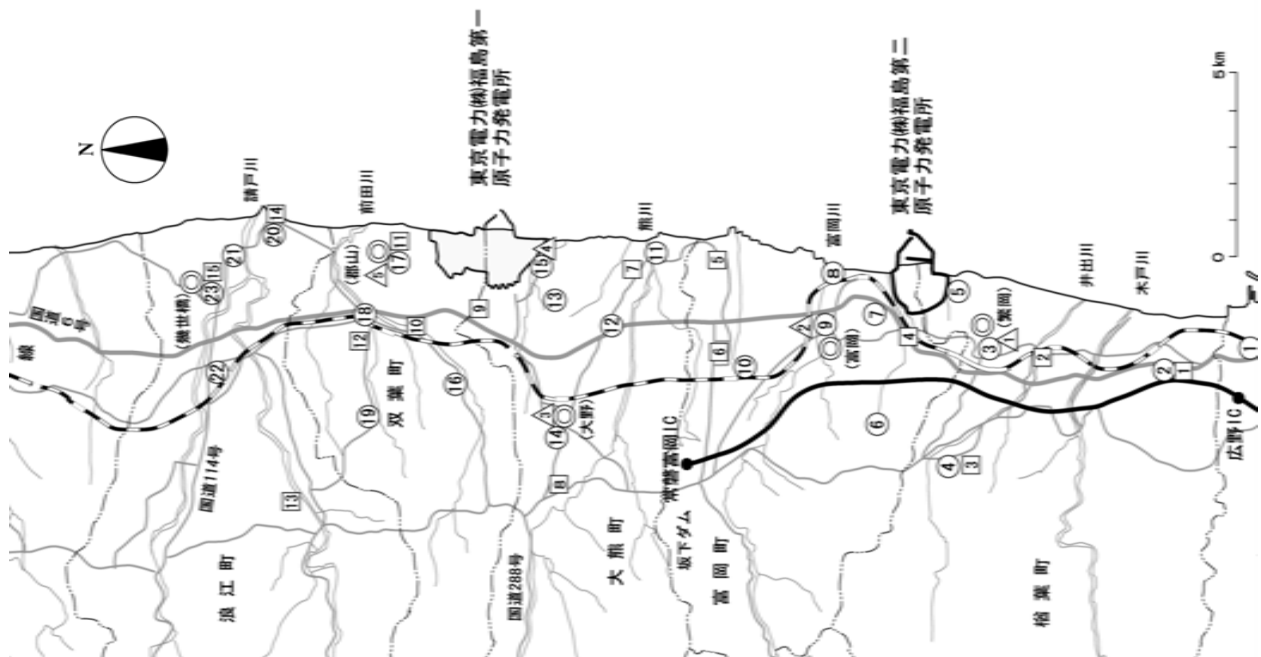
ア 福島県測定分

福島県測定分^{*1}

以下は抜粋

単位： $\mu\text{Gy/h} \approx \mu\text{Sv/h}$ (マイクログレイ/時間 \approx マイクロシーベルト/時間)

No.	局舎名	測定期間（3月11日0時～）	平均値	最大値	過去の最大値 ^{*2}
19	双葉町 上羽鳥	～3月14日 12時 ^{*3}	58.5	1,590	0.10
22	浪江町 浪江	～3月31日 24時	9.38	134	0.09



【訂正後】(訂正箇所：太字・下線)

文部科学省のモニタリングカーを用いた
福島第1発電所及び第2発電所周辺の空間線量率の結果について

平成23年3月16日
文部科学省

1. 背景

文部科学省は、待避している住民や周辺住民の安全・安心の確保のためモニタリングカーを用いて、現在、待避区域となっている、施設から半径20キロメートル以上、30キロメートル以内の範囲でモニタリングを実施した。(別紙)

2. 測定条件

- 測定日時：平成23年3月15日 20時40分～50分
- 測定機器：GMサーベメータ及び電離箱
- 測定場所：浪江町周辺(福島県第一発電所から北西20キロメートル)
- 測定環境：車内及び車外で測定

3. 測定結果

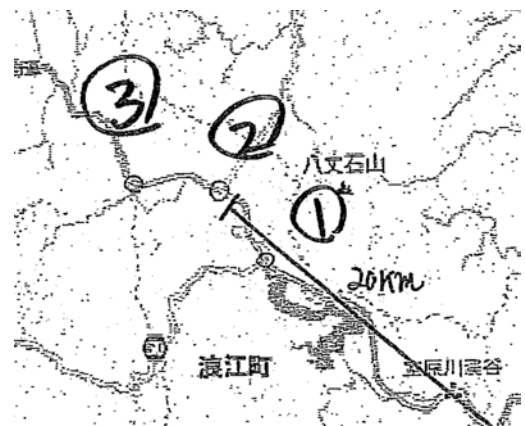
本日、モニタリングカーを用いて、空間線量率を測定した結果は下記の通りである。

(マイクロシーベルト毎時)

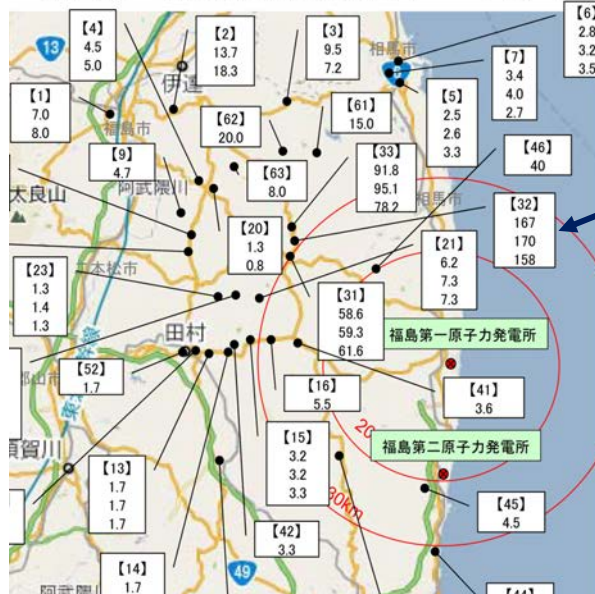
測定点	測定環境	測定機器	
		GMサーベメータ	電離箱
①	車内	<u>300</u>	260
	車外	<u>330</u>	300
②	車内	220	195
	車外	270	240
③	車内	<u>223</u>	210
	車外	<u>255</u>	240

事故直後のモニタリング等はほとんど公表されていないが、資料が残っているものでも、 $91 \mu\text{Sv/h}$ を大きく超えている。

★文科省の2011年3月15日モニタリングでは
20km圏外の浪江町で $330 \mu\text{Sv/h}$



福島第一原子力発電所周辺のモニタリング結果



★文科省モニタリングでは
3月17日でも
30km圏外で $150 \mu\text{Sv/h}$ を超えている
(【32】赤宇木の手七郎)

測定日時
3月17日
9時20分～17時43分

●測定箇所

単位：マイクロシーベルト毎時

http://web.archive.org/web/20110322154547/http://www.mext.go.jp/80/component/a_menu/other/detail/_icsFiles/afieldfile/2011/03/19/1303727_1719.pdf